



TCA

—NEWS—

Vol.50 秋号

発行
富山市民国際交流協会
広報委員会

〒930-0002 富山市新富町一丁目2-3
CiCビル3F 富山市民国際交流センター内
TEL (076) 444-0642 FAX (076) 444-0643
発行責任者 広報委員会委員長 岡田昌代



8月25日 当センター

今年のテーマ

「日本の生活・習慣を取り入れる」
「暗唱を取り入れる」

平成17年度 夏季日本語集中講座

期間：8月22日(日)～27日(土)

クラス：午前の部クラス(入門・初級・中級・ロータリー)

午後の部クラス(入門・初級・読解スピーチ・ロータリー)

受講者：36名 (中国・韓国・ブラジル・ハンガリー・米国
カナダ・オーストラリア・英国・インドネシア)

講師：22名

「日本の文化にふれて…」

ロータリークラブの交換留学生クラスは、習字とはんこづくりにチャレンジしました。

ブライアン(武来安)、ビクトリア(美九戸里亜)など自分の名前を漢字に替えて書きました。

初めての体験ながら、彼らにとっては絵を書くような感覚で簡単だったようです。

消しゴムではんこもづくり、色紙に書き上げて立派な作品が仕上がりました。はんこづくりでは、篆刻についても説明してもらって、しっかり日本文化にふれました。

ボランティアで育てよう 富山市民国際交流協会

多国言語文化交流クラス

モルドバ&モルドバ語(ルーマニア語) 7月2日

講師 アレクサンドル ガイナ氏(富山医科薬科大学保健医学院生)

モルドバ共和国は、旧ソビエト連邦の1つで東ヨーロッパに位置する日本の九州より少し小さいの平坦な国です。地下資源やエネルギー資源が乏しく、主な産業は農業、ブドウの栽培でワインが



主体です。昔から周囲の国々によって幾度となく侵略や収奪が繰り返されており、また、同化や融和のない強い民族意識を持ったままの人々によって構成された多民族国家なので統治が難しく、政治的にも経済的にも安定せず、従って貧困からなかなか脱却できません。今も頭の痛いドニエステル(沿ドニエストル)問題を抱えています。

日常の食生活は、朝と昼はジャガイモや肉をメインとして、夜はクッキーなどの軽食で済みますそうです。

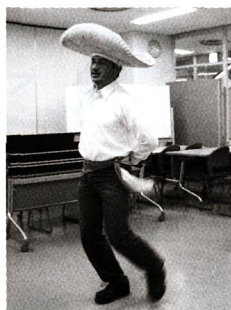
参加者は、この国のことを知っている人はあまりいませんでしたが、ガイアさんの真面目な講義からモルドバについて多くのことを学びました。

メキシコ&スペイン語

9月3日

講師 ミゲル ロドリゲス氏(富山大学教育学研究科研究生)

「メキシコは、北アメリカに属し、北アメリカで3番目に大きい国です」ミゲルさんの第一声でした。公用語がスペイン語なので中南米に属するように錯覚しがちです。メキシコは56%が砂漠、37%がジャングルですが、メキシコシティは世界で一番大きい街だそうです。また、オルメカ・テオティワカン・トルテカ・アステカそして「マヤ文明の魔法」などの古代文明からメキシコの歴史についてや、アステカの先住民文化とスペインの文化がブレンドされたメキシコの文化は、食文化でも歴史的に奥深く魅力的であると、ていねいに解説されました。



ミゲルさんは、メキシコでは中学校の先生です。故郷のサン・ルイス・ソヤタランの町も紹介して、最後には、メキシコを再発見した参加者たちを、陽気で軽やかな音楽と踊りで楽しませて下さいました。

ALT交流会

2学期から、新たに富山市近辺の中学校や高校に赴任した英語指導助手(Assistant Language Teacher)と会員らの交流会が開催されました。



8月26日 当センター

会場には、会員らの手作りの料理やケーキなどが用意されて食べながら楽しいひとときを過ごしました。自己紹介や近況報告のあと、日本語講座や当協会の行事なども紹介し、参加者は親睦を深めました。

英語スピーチと討論の会(ESD)

7月例会 7月12日 18:30~20:00

テーマ 「“Cultural Obstacle in Translation”」
スピーカー Adam Bigelow氏(元富山県国際交流員)

ビゲローさんは、自身の日本語学習経験を通して感じた英語と日本語における文化の違いから来る翻訳の難しさ、微妙な感覚の差異を米国人の立場で率直な感想として話され、日頃私たちが気づかないことを改めて認識することができました。



日本語独自の相手を気遣う遠回しの表現や「もったいない」など訳し難い例などをあげて、互いに充分に理解し合えると信じていながら現実には簡単なものではないこともある…と。

異文化理解とその翻訳において大切なことは、その国なり、その文化、人々に対し前向きな好意を持っているか否かにより、ものの見方や考え方が様々になるように思われます。

参加者は、翻訳の奥の深さを垣間見る機会となりました。

夏期特別例会 7月26日 18:30~20:00

テーマ 「“Nuclear Weapons Past, Present and Future”」
スピーカー Yumiko(Ikeda)Guelcher氏(米国アイオワ州在住、ESL講師)

夏休みで里帰り中のユミコ・ゲルチャーさんのお話でした。欧米人3人も交えた20数人が参加しました。



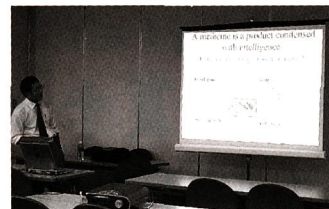
ゲルチャーさんは、時たま広島原爆資料館を訪れては原爆の惨状を伝える記録や遺品を見て激しい衝撃を受けました。しかし、米国に在住して、米国人は核兵器について悪いものという感覚が薄いように思われました。ゲルチャーさんは、①何故、大量無差別殺戮を避けられなかったのか?②世界の「核兵器保有」の現状は?③この「核」をどう扱うべきか?など意見交換をしながら迫力のある講義でした。

今年は、戦後60年。この戦争体験を風化させることなく「広島」「長崎」を間違いなく後世に伝えていかなければならない。——皆の意見でした。

9月例会 9月13日 18:30~20:00

テーマ 「Pharmaceutical Industry of Toyama in the Wave of Global Standard」
スピーカー 鈴木 英世氏(富山県薬事研究所所長)

富山県の医薬品生産高は統計上全国第8位だが受託生産は含まれないので実態を反映していない。県内で生産される医薬品は、伝統薬以外にも一般薬など全てのクスリが生産されている。県内には、多くの医薬品関連産業があり、相互に支え合っている。本年4月の薬事法の改正により、大手からの受託生産が多くなってきて、また、後発医薬品(特許切れにより生産された同効薬)の需要が増えており、追い風が吹いているといわれている。



参加者は、身近な地元の話題に興味深く、質問したり「くすりの富山」をあらためて感じたようでした。

これらの講話・座談・討論などすべて英語で行なわれました。

国際教養委員会

浴衣着付け教室



7月26日
しんこうわかんわしつ
とやま市民交流館和室

日本の着物に興味を持つ、富山在住の外国の人たちは「自分で着物を着られるようになりたい…」と、この日を楽しみにして夫婦で参加する人もありました。「主人に浴衣を買ってもらったの」と自分の浴衣を持参した人もあり、ボランティア委員会の人たちの指導でみんな一生懸命に習いました。

民謡交流会



7月24日
とう
当センター

留学生や富山在住の外国の人たちに日本の伝統文化を紹介し「越中おわら踊り」を会員たちと一緒に習いながら交流をしました。講師の丁寧な指導でみんなは上手に踊れるようになりました。

参加者たちは、「富山まつり」でゆかたを着て大勢の人たちと一緒に踊ることをたのしみにして、交流会を終わりました。

ボランティア委員会

ホームビジット



ホームビジットで元気なパワーをもらった！

かいじん はせがわちえこ たかし
会員 長谷川千恵子さん・隆さん

7月30日(土)、活発で美人の英語の先生 王黎さんと、もの静かで優秀な研究者 孫迎春さんを、点茶盤による立礼の薄茶の手前でお招きしました。

中国のふるさとの話や富山での研究内容をなれない日本語と英語まじりで会話をしました。王さんから英語のレッスンも受けました。ささやかな昼食を済ませ「とやま土人形工房」へ出かけて人形の絵付を楽しみました。

今日は、主人も大ハッキリしてくれ、情熱にあふれた若い二人と出会えた私たち夫婦は、元気なパワーをいっぱいもらってステキな一日でした。

文化交流委員会

平成17年度夏季日本語集中講座



ちゅうきゅう
「中級クラス」

とう
当センター

8月22日～27日までの6日間に午前・午後各4クラスの8クラスを開設しました。今年は初めて中級クラスを開設し、日本の笑い、新聞擬音語・擬態語、料理の作り方、また、「楽しくない？」と「楽しくない。」などのイントネーションの

違いによる意味の違いなどを取り上げました。他の各クラスでも「箸で食器を動かさない」など日本の食事マナーや冠婚葬祭マナー、金子みすずの「私と小鳥と鈴と」の詩の朗読など日本語とともに日本文化も学んで喜ばれました。

また、バザーを開催したり、「災害時」の対応についての講習会もしました。

講師たちは、7月からテキスト作りなどの準備で大変でしたが、最終日の学習発表会を終えた時、受講生の「来年もまた参加したい」のことに、みんなの協力で成し遂げられた事に講師たちは本当に感動しました。

国際教養委員会

「財名古屋国際センター」と「愛・地球博」を訪ねて

研修第1日目 「財名古屋国際センター(NIC)」に学ぶ

市民レベルの国際交流を行う先進協会から、各種事業やボランティア活動の状況、災害時の対策、交流のあり方などを学ぶことを目的に訪問しました。



財名古屋国際センターの丹下厚史氏(前列中央)と

研修ポイント1 個人・法人会費の増加・確保につながる対策

NICには、法人会員185団体(年会費60,000円)、個人会員263人(年会費10,000円)ほかに学生会員の制度があります。年間1,000万円以上の会費収入があることは、流石に大都市であり羨ましいことです。会員は、賛助会員で、事業等を実施するボランティアとはっきり分けています。いつも会員の増加、確保には苦慮していて、平成16年度に職員(54名)で、賛助会員勧誘の取組みを行ったところ35人の入会があったそうです。

名古屋市と富山市とを単純に比較することはできませんが、予算、建物、設備、装置等の立派さ、スタッフはTCAの5名に対し、NICは50名とすべての規模の大きさに圧倒されました。

ただ、示された事業内容は、複雑多岐にわたっているものの、中身においてはTCAも人後に落ちないと感じました。(情報サービス、ライブラリー、広報誌の発行、イベント・セミナーの開催、施設の貸し出し、各種の相談業務、etc)

研修ポイント2 災害時における取り組み(ネットワーク体制、通訳ボランティアの養成など)

NICの災害語学ボランティア制度は、名古屋市地域防災計画に基づく外国人支援の一環です。また、名古屋市との災害時における派遣協定に基づき、市からの要請を受けてボランティア派遣が行われています。など、行政との連携合意に基づいた制度の位置付けが明確化されています。これは参考にしたらよいと思いました。

ボランティアの登録に関しては、自己申請のみで審査もなく、また、語学研修なども行われていません。これは、派遣先で実際に役に立てるのかを考えてみる必要があるようです。

当協会が今年度から始めた「災害ボランティア(語学)養成講座」は、必要であることを改めて感じました。

Report 原和子さん

研修ポイント3 外国籍児童生徒の支援体制

研修ポイント4 日本語講座運営

NICでは、毎週日曜日に名古屋在住の外国人約200人に「日本語の会」を開催しています。現在は、登録している日本語ボランティア(80人)が交代でクラス運営に当たっています。

また、子どもの日本語支援も日本語ボランティアたちが中心となって行われ、ブラジル人の子どもが多い地域では、サッカー教室を開催し交流を図ったり、学校に語学サポートボランティアを派遣したりしています。今年は「夏休み子ども日本語教室」も行われます。

学校に語学サポートの派遣を行うまでには、教育委員会との交渉に3年もかかったそうです。子どもの日本語支援に、ボランティアはどのような形で関わっていけるのかをしっかりと考えていかなければならないと思いました。

Report 原和子さん、西田洋子さん

研修第2日目 「愛・地球博」を見学



企業パビリオンゾーン

地球の未来に会いに行きました。時折、雨が降ったり止んだりの過し易い天候でした。長久手会場から瀬戸会場に広がるセンターゾーン、日本ゾーン、企業パビリオンゾーン、森林体感ゾーン。遊びと参加ゾーンでは、愛知万博のテーマ「自然の叡智」である自然を感じたり、考えたり、楽しんだり。そして、グローバル・コモン1～6では、世界120か国以上が参加しているとあって5大陸を世界旅行をしたような気分さえ味わえて、アフリカ共同館は、まさに、そこはアフリカの香りいっぱいのアフリカ大陸を訪れているようでした。

参加者たちは、広い会場を、思い思いの見どころを、国際交流の関心を示しながらまわり、それぞれに「EXPO 2005 AICHI JAPAN」を感動し、帰富に着きました。

総務企画委員会

OWARA DANCE in TOYAMA

8月6日 とやま市民交流館

第55回富山まつりの「越中おわら踊り」は、あいにくの雨で中止になりました。

夕方からの雨で「中止」の連絡がありましたが外国の人たちは順々に集まって来ました。「せっかくみんなが来てくれたのに…」と、急遽市民交流館で踊ることにしました。

ボランティアの人たちに浴衣を着せてもらい、祭りの気分でワイワイと賑やかに、おにぎりとお茶で腹ごしらえをした後、CDの「おわら節」に合わせて踊りました。

ちょっと物足りない様子でしたが、それでも写真を撮り合ったりしてみんなは楽しそうでした。

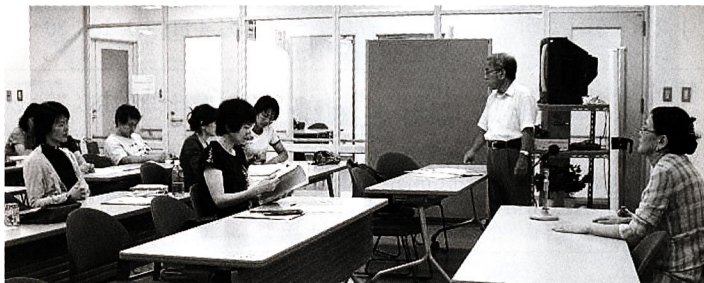


災害ボランティア(語学-英語)講座

… 順調にすすんでいます …

本年度の新規事業として6月から12月までの全10回シリーズで開講しているこの講座も6回まで終了しました。講座は、外国人1名、日本人3名の講師が担当して、富山に住む外国人が災害の際に直面するであろう様々な状況を想定し、英語で情報を与えたり、助言をしたりできる力を養おうと進められています。講座内容によっては、実際に災害を体験したり、ボランティアとして外国人のアシストをしてきた人たちを外部講師として招き、話を聞いたりしています。

9月の第6回講座では、医療通訳として活躍しておられる永山コニコさんを招いて現場の生々しい話などをしてもらいました。



受講生の中には、教員や海外ボランティア経験者、看護師等医療従事者、救急隊員などもいてそれぞれの専門分野からも毎回グループディスカッションなどを通じて講座に積極的に係わり、全員が充実した時間を過しています。

医療通訳をするには、基本的な医療の知識がないとダメだということです。忠実に通訳をして結論を出すのは患者です。患者の不安な気持ちも先生に伝えなければなりません。納得のできない状態を患者は外国人への差別と考えてしまうこともあるからです。また、事前に患者とよく話をしておくこと、保険証のこと、薬の説明や取扱いのこと、ほかにも…

災害ボランティア活動参加者募集

… あなたも登録を …

近年、地震・水害・津波などによる災害が各地で多発しております。

富山市では、平常時からの関係団体の連携強化などを目的とした「富山市災害ボランティアネットワーク会議」が平成15年7月に設置されました。

当協会といたしましても、本市に在住する外国人が災害に遭遇したときの支援策として災害発生後における外国人の生活支援を目的に「災害ボランティア活動参加者」を登録し、必要に応じて活動していただくことを考えております。

登録対象者は、富山市民国際交流協会会員、災害(語学)ボランティア養成講座受講生及び富山市在住外国人といたします。

主な活動分野としては

- ①通訳、翻訳
- ②安否情報や生活情報の収集・伝達などの広報
- ③救援物資の仕分け、運搬、配布
- ④その他被災者の生活支援などです。

ボランティア保険加入については、手続きと保険料は協会对応とします。

募集・登録は平成17年10月からとし、活動開始は平成18年4月を予定しております。



ワーク
ショップ

「外国からのもたち」 ～外国人のもたちの悩ををろう！～

9月10日 ウイングウイング高岡



みなさんの周りにもいませんか？「とやま外国籍子ども支援ネットワーク」では、外国人のもたちの悩や、子どもたちを取り巻く環境の問題点ををるワークショップをを開催しました。今回は、呉西地区では初めての開催でしたが市民ら約30人が参加しました。ポルトガル語だけで授業やゲームを進め、その体験を通して日本語の分からない子どもたちの気持ちを理解しました。

当ネットワークでは、外国籍のもたちの多い高岡での活動の第一歩となり、今後も広く活動を進めて、子どもたちがより良い生活を送るための支援をしていきたいとしております。

当協会でも、2004年3月13日に“国際交流TCAカレッジ「外国からのもたち」～子どもたちみんなに未来を～」を開催し、増加する外国人住民とその子どもたちが直面しているさまざまな問題点について一緒に考えました。

お知らせ

お申し込み・お問合せは当協会まで
TEL 076(444)0642 FAX 076(444)0643

行 事	日 時	と ころ	担当委員会	参加費	対 象
ディスカバー富山	10月1日(土) 9:00～16:00	富山市内各所	国際教養	日本人 2,000円 外国人 1,000円	会員・外国人
ボランティア養成講座 「災害の備えが町をすみよくする」 講師 島田 茂氏	10月4日(火) 18:30～20:00	当センター	ボランティア	無料	会 員
特別講演会 「最近の台湾事情」 講師 蔡 佩君氏	10月5日(水) 18:30～20:00	当センター	姉妹友好都市	無料	会員・一般
英語スピーチと討論の会例会 「New Orleans, Louisiana:History, Culture, and Hurricane Katrina」 講師 布谷クリスティーナ氏	10月11日(火) 18:30～20:00	当センター	国際教養	無料	会員・一般
国際交流フェスティバル2005	10月22日(土) 13:00～17:00 23日(日) 10:00～16:00	CiCビル前広場 CiCビル1F、3F、5F	合同	—	—
平成17年度 海外研修	10月29日(土)～11月2日(水)	「台湾」	姉妹友好都市	136,000円(予定)	会 員
スポーツ交流(卓球)	10月30日(日) 13:30～16:00	2000年体育館	文化交流	200円	会員・外国人
多国言語文化交流クラス 「中国語」 郭 明輝氏	11月5日(土) 13:30～15:00	当センター	国際教養	200円	会 員
茶 道	11月13日(日) 13:30～15:30	五番町公民館	文化交流	無料	外国人
もっと知ろう世界の街 「台湾」 鄭 雅云(服部雅子)氏	11月27日(日) 13:30～15:00	当センター	文化交流	無料	会 員
料理教室	11月29日(火) 10:30～14:00	奥田公民館	ボランティア	300円	外国人
富山大学留学生ホームビジット	12月未定(土) 10:00～		ボランティア	—	—
年忘れパーティ	12月未定 11:00～13:00	当センター	ボランティア	未定	会員・外国人

国際交流フェスティバル2005

と き 10月22日(土)～23日(日)
と ころ CiCビル及び前庭(駅前広場)
内 容 ステージ公演・国際交流団体活動紹介ブ
スとワークショップなど
※誘い合って参加してください！

会員のみなさんへ〈会費納入〉のお願い

- 会 費 1口 個人 3,000円 家族 5,000円
団体・法人 10,000円
○納入方法 ①当協会窓口
②振込の場合は
北陸銀行富山市役所出張所口座 富山市民国際交流協会
普通預金 No.4076440

編集後記

毎年恒例の「国際交流フェスティバル2005」は、今年も10月22・23日に開催されます。ポスターとチラシが出来上がりました。黒地に白字の「心」と「こころ」が「赤いハート」をとおしてピンクの糸で結ばれています。

人と人のつながりを、心とこころの付き合いを、糸は、「平和を願う糸」の意味合いで、作者からのメッセージが込められています。

国際交流フェスティバルのポスターは、2000年から呉偉申(マレーシア)さんに依頼しています。呉さんは、富山大学留学生の頃は当協会でもよく交流しました。現在は、東京都在住でパッケージのデザイン等をしておられます。ポスターには、いつも人々の幸せを願う心を込めたメッセージを発信しています。

フェスティバル当日は、来場者が互いの手首にやさしさを繋ぐ糸を結び合い、新しい出合いを、会話がつながるきっかけを、心とこころの付き合いの始まることを願い、そして、みんなで世界中の平和と安全を祈りましょう。

広報委員長 岡田昌代